

# 平成 29 年度 第 1 回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 平成 30 年 1 月 18 日 (木) 14 時～15 時 40 分

場所 花巻市石鳥谷総合支所 3 階 3-2、3-3 会議室

出席委員 高橋信雄委員、関豊委員、熊谷常正委員、室野秀文委員、中村良幸委員  
(全委員出席)

報道関係者 なし

傍聴者 なし

事務局 花巻市教育委員会 佐藤 勝 教育長、布臺 一郎 教育部長  
文化財課 酒井 宗孝 文化財課長、村田 豊隆 文化財課課長補佐  
佐藤 幸泰 埋蔵文化財係長、菊池 賢 上席主任、  
花巻市博物館 小田桐 睦弥 学芸員、高橋 静歩 学芸員

## 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 平成 29 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について

(2) 平成 30 年度 花巻城跡内容確認調査の実施計画案について

4 そ の 他

5 閉 会

\*\*\*\*\*

## 1 開 会

(司会：佐藤係長) 本日は委員の皆様には、大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日進行させていただきます、文化財課埋蔵文化財係の佐藤幸泰と申します。宜しく願いいたします。会議に先立ちまして、本日出席しております花巻市教育委員会の職員をご紹介します。

教育長 佐藤 勝 (さとう まさる)  
教育部長 布臺 一郎 (ふだい いちろう)  
文化財課 課長 酒井 宗孝 (さかい むねたか)  
文化財課 課長補佐 村田 豊隆 (むらた とよたか)  
文化財課 埋蔵文化財係長 佐藤 幸泰 (さとう ゆきひろ)  
文化財課 上席主任 菊池 賢 (きくち さとし)  
博物館 主事 小田桐 睦弥 (おだぎり むつみ)  
博物館 主事 高橋 静歩 (たかはし しずほ)

それでは、ただ今より平成 29 年度第 1 回花巻城跡調査保存検討委員会を開会いたします。まず最初に、教育長 佐藤 勝 よりご挨拶申し上げます。

## 2 あいさつ

(佐藤教育長) 大変お忙しいところ、そして足元の悪いところ、お寒い中、出席いただきましてまことにありがとうございます。この保存検討委員会も、今回で5回目ということになります。前回は三之丸の旧谷村新興製作所跡の試掘結果の調査報告書をご確認いただきましたし、さらに昨年度実施した二之丸の南御蔵東側部分の 650 m<sup>2</sup>ほどの内容確認について、ご協議・ご指導いただきました。そして、今年の調査予定についてもお知らせし、ご指導いただいたところです。

今日は、その計画に沿って本年度実施いたしました継続調査の 665 m<sup>2</sup>分の調査結果をご報告するとともに、来年度の内容確認調査の実施計画についてご意見を賜りたいと思えます。

今年、お手元にございますような花巻城展。こういった形で博物館の方でも調査した結果を早速展示ということで、市民の皆様にご報告・お示したわけであります。また、この後1月20日に「遺跡を学ぶ会」という主催事業がありますけれども、その場では関委員さんに講師をお願いしてご講演をいただくということになっております。こういった市民への啓発ということについても、併せて今後こういった方向で行けばいいか、ご意見を賜ればありがたいと存じます。それではよろしく願いいたします。

### 3 協 議

#### (1) 平成 29 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について

(佐藤係長) 続きまして次第の 3、協議に入りますが、ここからは花巻城跡調査保存検討委員会設置要綱 第 4 条第 2 項により議長を委員長にお願いいたします。

(高橋委員長) それでは、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開することにご異議ございませんか。

(委員) 異議なし。

(高橋委員長) 異議なしということですので、それでは本会議は公開といたします。では協議 (1) 「平成 29 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について」事務局から報告をお願いいたします。

#### ※ (事務局から説明) 資料No. 3

(高橋委員長) ただいま非常に詳細な報告がありました。これに関しまして委員の皆様からご質問・ご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

(関委員) 礎石と思われるような石が調査区外にありましたけれども、蔵は当然火災後に建て替えられていると思うのですが、それに焼けた痕というのは見られませんでしたか？

(菊池上席主任) 一つの石に、少し赤味を帯びたような部分が認められる花崗岩がありましたが、一部分だったので、それが火災によるのかどうかは分からないのです。

(関委員) 熱を受けている赤味ということでしょうか。

(菊池上席主任) そうですね。調査区外にあった巨礫のほうにやや赤味を帯びた部分を持つものがありました。

(関委員) それ一個だけですか？

(菊池上席主任) 見た限りですと。

(関委員) あの状態ですからね。引っくり返せない。分かりました。

(熊谷副委員長) 昨年度の遺構確認面も、整地層で全部覆われているということですか。

(菊池上席主任) 昨年遺構検出面も整地層だと思います。

(高橋委員長) あとですね、南側の 1 号集石より更に南に延びる可能性はあるわけですか？

(菊池上席主任) 調査区外の方に入っていくような方向性を持っているので、また文献の

記述などを見れば40mを超えるような建物があるとすれば、やはり南の方に延びていつている、というようなことも考えられるかしれません。

(熊谷副委員長) 集石が結構規模が大きくて、芯々で1号・3号・5号はどれ位ですか？

(菊池上席主任) 芯々でございますと、大体5m程度ということになります。

(熊谷副委員長) そのような規模はあるのでしょうか。

(中村委員) 南に延びているのは、いわゆる40mの方向ではないのでは？そっちに40m延びたら土塁を突っ切ってしまう。だから、40mと言っている長さというのは逆に東西方向じゃないのか。ここから40mといたら完全に土塁を突っ切って外側に行ってしまう。

(熊谷副委員長) 今回の整地層の段差の部分から、北側の堀のラインまでというのは、大体どれ位ありますか？

(菊池上席主任) 今、手元に資料が無いので、測量もそこまでやっておりませんでしたので、幾らということは申しかねるところでございます。

(熊谷副委員長) さっきの絵図の中で整地層の範囲だとした所がありますね。あれで見ると、整地層の範囲がその緑ですよ。北側の堀のラインまでは20mもない。

(高橋委員長) 私が気にしているのは道。あの段差が道にならないかどうか。御蔵だから、かなりの米を運ぶには、きちっとした道路の普請があつて。道路が二つ描いてあるから、どっちから運んだのか分からないけれども、少なくともあの道路の手前、まっすぐ延びているようにサーッと描いているけれども、きちっとした道路だった気がする。それが今残っている段差じゃないかと思って。

(熊谷副委員長) また違ってくる。

(中村委員) どうも、あの絵図面に合わせると下の蔵のね…、H型になっているところの下にもう一つ蔵がある。その下の間隔がすごく空いている。ここだと土塁ギリギリまで調査している所が入っているのだけれども、全然絵図と合わないの、形がどうなのか。

(関委員) これ、最終形ということだよ。

(熊谷副委員長) 幕末期だから。

(関委員) 享保のものではない。

(中村委員) だから、かなりこの絵図面に合わせて考えるのは、難しいのではないかという話。さっきも長さ比べていたけれども、難しいのではないかな、この形から見るとね。

(関委員) 享保の記事は、東西南北の書き方じゃなくて「長いのが幾ら、短いのが幾ら」

という感じの書き方ですよ。どっち側にどう向いているのかは書いていない。

(中村委員) そう。それに合わせていくと、全然絵図と合わなくなってくるので。それに合わせていくと非常に後で混乱するのだと思うけれども。この絵図に合わせて。

(関委員) ただ、整地層の範囲をどうするかという解釈の中では、その段差の可能性は確かに考えたいだけだね、あの絵図の。

(中村委員) 絵図の描き方をみると確かに。

(熊谷副委員長) この整地は、少なくとも慶安の段階に造成された時まで遡る可能性はあるということですよ。

(菊池上席主任) そのような理解です。結局、整地があって、そして蔵が建ったわけですから。調査成果から言っても、火災の痕跡が整地層の上面で検出されているわけですから、火災以前から整地層が存在しているのは明らかです。ですから、整地層がそこまで遡るということは言っていないと、少なくとも。

(高橋委員長) そうすると、やっぱり土塁の底。あの裾だよ。裾が、前回も分からなかったけれども。もう出てきてもいい場所まで掘ったけれども。

(熊谷副委員長) あと室野さん、教えてほしいのですけれどもね。集石が礎石建ちの建物の柱だとすると、この焼土粒が出てくる方形の雨落ち状のラインは何なのですか。建物の外側の壁ですか？

(室野委員) 前にもちょっとお話しましたけれども、恐らく蔵を囲っていた何かがあったのじゃないかと。区画施設ですね、恐らくは。

(関委員) 塀とか、そういう？

(中村委員) 板塀みたいな。

(室野委員) 塀であったり、あるいは柵みたいなものであったりですね。

(熊谷副委員長) 建物そのものは礎石のラインですか？

(室野委員) 礎石のあたりでいいのではないのでしょうか。

(熊谷副委員長) それで、その外側に何か施設があったと。

(室野委員) 蔵そのものを区画するものがあったと思いますね。さっき、北側の方で焼土層の塞がっているのが並んでいたということであれば、区画施設のピットなのかな、というふうに考えられると思いますね。

(高橋委員長) あれは2列並んでいるけれども、建物っていう感じじゃないよね。

(室野委員) 建物じゃないですね。

(熊谷副委員長) 堀みたいなのだと、溝状の掘り方みたいなのはあるのですか。

(室野委員) そのように造る場合もありますし、ただ柱穴を並べてくる場合もありますし。それは一様ではないと思います。

(熊谷副委員長) 実際に盛岡城とか、九戸城はともかく、そういった蔵みたいなのを外側に目隠し状の施設を持つ例ってというのは確認されているのですか？

(室野委員) 今、盛岡城の石垣の南に大きい蔵が一つ残っているのですが、あれはもと道路の方にあったものを引っ張ってきてあそこに置いたのですが、移転前の御蔵の蔵の遺構も掘っていますし、その北側に布掘りの柵で遮蔽した、ちゃんと木戸が付いた柵ですけれども、それを発掘しています。

(関委員) それは、四面を囲むように？

(室野委員) 四面ではないです。北側と東側の一部が出ているのですが、その東側はあいにく道路の地下埋設物とか色々に攪乱されていて、僅かな部分しか確認していないのですが、それぞれ北側と東側、土蔵とほぼ平行している関係がありましたから、多分囲っていたのだらうと思います。

(中村委員) 何の囲いですか？その二か所しかないのは、二方向しかないっていうのは。

(室野委員) 結局、蔵の南側と西側は堀になりますので。

(関委員) 囲む必要がないということ。

(熊谷副委員長) これもその可能性が…。

(室野委員) 普段、誰でも入れる蔵ではなくて、かなり厳重に管理されていた蔵で。

(熊谷副委員長) 南御蔵の管理が非常にしっかりした形で行われていたという根拠になる施設だと。

(室野委員) そういうふう理解したほうがいいのかと思います。

(熊谷副委員長) それから、さっきの報告の中で、石の入った暗渠を深掘りしたところはともかく、左側に攪乱が2本入っていますけれど、この攪乱は新しいものなのですか？

(菊池上席主任) これは新しい攪乱と判断しています。ビニール片などが入っていますので新しいということでございます。

(熊谷副委員長) 芯々で5mを測るような柱間はあるのですか？2間以上ある。

(室野委員) 妻の側であればあるかもしれません。長い方じゃなくて、短い方。

(中村委員) 短いほうでしょう。

(熊谷副委員長) それは、図面には合致しますよね。

(室野委員) ただ、先ほど議論になっていたのですけれども、あの絵図はあくまで幕末の絵図なのであって、享保に火災で焼失した蔵を踏襲しているかどうかというのは、それは分からないと思います。

(関委員) 一応規模の記載みたいなものがあるのですが。

(室野委員) これは、火災の規模を計測したのが基になっていると思うのですけれども、おおよそのどれ位の規模が焼けてしまったのかということを書き残すための、盛岡に報告を上げた時のものが、これに記載されているのだらうと思います。

(熊谷副委員長) この整地層が、結構大規模な整地層だとするならば、この整地の土はどこから来たのか。堀を掘った時の土なのか。

(関委員) 普通はそうでしょうね。

(室野委員) ということは、花巻城創建期に遡る、少なくとも慶安段階に御蔵が建設されるより古い時期に、花巻城の創設期に遡る堀。それに関連した土壌だと。それならば、この整地層の中にグライ化した土壌ですとか、何か深いところから掘り上げたような痕跡とか、三紀の層のブロックが入っているとか、そういったものは確認できませんでしたか。

(菊池上席主任) そこまでは確認していません。

(熊谷副委員長) まだ少ししか掘っていないからね。でも、膨大な量ですよ。1 mに亘ってこれだけのところを整地している。しかも、武徳殿の方に広がっていることは十分に、南御蔵の本体部分へ。

(高橋委員長) 東に向けて下がっていて、ちょうど一番盛った深い位置の可能性があるのでよね。

(熊谷副委員長) 旧地形がどうなっているのか、ということを知りたいですよ。

(中村委員) いちばん土を持ってきやすいのは、内堀の二之丸を区画している堀。あの辺から持ってくるのであれば、一番近く持ってこられるので。あとは、かなり段差がついているので、相当の労力で上げなければいけないのだけれど、二之丸の境になっている—いま小学校のグラウンドの下に埋まっている部分の堀であれば、かなりの土量が上げられるとは思う。そこで済むかどうかという問題はあるのだけれど、どれぐらいの深さか分かりませんから。ただ、水が入っているところを見ると、同じ位の高さなのでしょうね。

(熊谷副委員長) やっぱり今回、この全体が整地層に覆われているというのが判明したのは大きかったことです。前までは、掘ったらすぐに地山が出てくるだろうという予想だったけれど、実は地山ではなかった。

(中村委員) おととし深掘りをした時に、下までかなり深かったですね。だからそれが結果的には盛土になっていたということなのだね。1 mぐらい下から黒土が出てくるから。

(高橋委員長) いずれにしても北側で焼土が曲がるというのは、建物は別にしてここで切れるということと、段差。大きな発見ですよ。すごい成果だと思うし、この北側の2列のピット群。さっき室野さんがおっしゃったけれども、溝じゃなくて区画だとすれば、これも非常に大きな成果だと思いますね。

(佐藤教育長) この武徳殿の塀の内側を調査しますか。整地層が出てくるかもしれない。

(酒井課長) 残っている可能性はありますね。

(中村委員) 1号集石の南側は、十分当たるぐらいのスペースはありますから。1号集石の南側の距離が大体分かっているのだったら、それで当てても引っかかるかどうか分かる。

(関委員) 武徳殿の南側ということですか？

(中村委員) そうです。1号集石の南。距離が大体合っているのだったら当ててみるということ。塀を壊さなくてもぎりぎり掘られますよ、1号集石の南なら。

(酒井課長) ちなみに、東側ですけれども、現在も細い道がついています。そこが幾らか下がるのですよね。ですから、図面の東側の盛土の範囲の可能性は高いと思います。図面でいくと、御囲穀御蔵の西側になります。

(中村委員) 植木か何かが植わっている。

(酒井課長) 植木があって、一つ下がるのです。

(熊谷副委員長) 基本的なことです。南御蔵の図面の中で、『雑書』の享保6年の記事の中に「大俵蔵」「小俵蔵」「大豆御蔵」とか、幾つかの蔵の種類があるように書いてあるのですが、幕末の絵図ではありますけれども、幾つか複雑な建物配置になっていますよね、南御蔵は。これは特定できるのですか。

(菊池上席主任) 南御蔵が描いてあるものとしては、この絵図が最も詳細なものです。それ以外の花巻城の絵図面ですと、蔵の名前が書いてあるものが一つくらいしかなくて、どれがどの蔵であるということは書いていないのです。ですから、この絵図面でも詳細な蔵の名前は分からないということなのですから、少なくとも史料の中にある火災で焼け

た蔵は「新御蔵のうち大俵蔵」「同所小俵御蔵」とありますけれども、この新御蔵というのがいわゆる南御蔵のことになるのですが、この二つくらいは名前が特定できる。その後の「相場御蔵」「大豆御蔵」というのは、これが南御蔵と同じものなのかどうかというのには問題があるかなと思います。

(関委員) 前にいただいた『伊藤家松川家住宅測量調査報告書』に載っているのは、全く火災の時期に近い地図ですよね。これを見ると、委員長がおっしゃったように道はまっすぐなのです。やっぱり道って考えた方がいいのかもしれない。これは、焼ける直前あたりの地図みたいだから、これには結構焼けた建物が描いてある。全部姓名が合う人がこれだけいますから、かなり近いと思う。それだと、何か間尺的に段差と道路が結構近い位置にあるようにも見えます。

(熊谷副委員長) それからやっぱり、建物規模が分かれば、具体的な『雑書』記載のどの建物なのかというのが想定できますよね。そういうことをやれば、同定できるのだというようなことは、報告書では指摘しておいたほうがいいかもしれないね。どこがどうなのかは分からないけれども。

(高橋委員長) その他、何か。無いようでしたら、次の協議(2)平成30年度花巻城跡内容確認調査の実施計画案について報告をお願いいたします。

## (2) 平成30年度 花巻城跡内容確認調査の実施計画案について

### ※(事務局から説明) 資料No.4

(高橋委員長) 平成30年度の調査計画についてお話しがありました。委員の皆さまの意見をいただきたいと思います。

(熊谷副委員長) 平成2年の本丸御殿の北側では、さっきのお話しですと整地層が確認されていると。今回計画の「便所」がある辺りは、便所の穴で整地層の深さは確認できると思いますか。便所の穴が見つければという話ですけども。これまでの台所門とか西御門とか、馬出し部分はともかくとして、本丸部分の整地というか造成がどう行われているか。今回の南御蔵のところもですけど、花巻城は築城時に当たってかなり大規模な造成と整地が行われている可能性が出てきたということからすると、この本丸部分のフラットな面をどのように構築しているのかというのを見る必要があるのではないかと思

います。もし整地層なのであれば、便所の穴が見つかるまででもなくて、やっぱりどこかにトレンチを入れて深さを、整地層の深さだけでも確認したらどうでしょうかね。便所の調査をしたことはありますか。

(関委員) いや、井戸しかないね。

(室野委員) 私は掘っていますよ、盛岡城で。絵図のとおりので出てきました。

(酒井課長) どのくらい深いものですか。

(室野委員) 私の掘ったもので、便槽の深さはこれくらい (30~40 cmほど)。

(関委員) そうすると整地層の厚さより薄いかもしれない。

(室野委員) ただ、もっと深いトイレもあるんじゃないかと思えますので。

(酒井課長) ちなみに来年度調査予定の便所というのは、殿様のものです。このお配りした花巻城展の図録の10ページ、松川家の資料ですね。これですと、いわゆる役所部分にも便所があるということが確認できる資料です。役所部分は大体50人近くの人が働いていたということなので、その便所となるとやはり相当深く掘らないと。ですから、こっちの便所も当てられる可能性はある。

(熊谷副委員長) これだと、いわゆる表御殿の部分が西側の方ということですか？

(酒井課長) はい、そうです。ここ(北側)にちょっと出ているのが殿様の便所。それと(東側の)二か所に便所があります。ちなみにこの便所につきましては、いわゆる御殿の設計図には載っておりません。

(高橋委員長) ただいま熊谷さんの方から出てきました整地層が、二之丸のさっきの所では深かったけれども、この本丸でどうなのかっていうのがあると思います。私は瑞興寺があったというその部分と整地との関係があると。瑞興寺を遷してやるわけだから、瑞興寺が在った部分があるはずですね、本丸のところに。それをターゲットにするのも一つの考え方じゃないですか。そうすると整地との関わり、本丸との関わり出てくる。よく分からないけれども、あれは東寄りにあったようなイメージなのだけれども、瑞興寺が。

(熊谷副委員長) 5年かけるこの一連の調査の中で、3年目である意味ピークの時でもありますし、30年度のこの事業計画書の中にも市民へ情報を発信するということも織り込まれている中で、本丸御殿の部分について本格的な初めての調査ということを見ると、便所だけでいいのかなという気はするのですよね。やっぱり、あといつ調査できるか分からないということを見ると、それなりの市民の付託に応えられるような、ある程度の面積な

り調査目的というものをやらないと。いま委員長がおっしゃったような前代の歴史的な蓄積を明らかにするのにもさることながら、やっぱり本丸御殿の粗々の概要が分かるというか、どこか縦とかの規模を。この曲尺状のトレンチで端が出てくれば、ある程度この図面の正確さが分かる。そもそもこの図面は、いつの図面ですか。

(菊池上席主任) この図は文化7年、1810年の建て替えの時の平面図です。

(高橋委員長) 私は決して瑞興寺を掘れと言っているのではなくて、整地がどうなのかと。あの本丸の整地がどうなされたのかっていう、その確認は必要だろうと。

(熊谷副委員長) 私は、さらにやっぱり本丸御殿が市民に分かるような、要するに「ここからここまでこの絵図面のとおり確認できましたよ」と、「この部分が便所で、そこからこういったところが建物の端になりますよ、恐らくこういった建物が」というのが提示できるような調査ということになるとですね、L字に調査するよりはもう一本南側にまで延ばしたほうがどうかと。

(関委員) どちらかと言うと、理想から言えば十字ですね。

(熊谷副委員長) 十字だな。あまり私はこういうのを掘ったことがないけれど、名古屋城の本丸御殿と違って礎石など残っていないから、イメージできないのですよね、範囲が。

(中村委員) このL字で北側と西さえおさえられれば、2点おさえられたらそれに合わせて、逆に言えば少し離れていても、端のところにトレンチを入れて、また東端を見つけるという事は可能。

(熊谷副委員長) 現地説明会の時には、杭を打ち縄で示すなど、ここからここまでが範囲でしたということがアピールできれば、市民の興味関心も高まるだろうし、実質的に来年・再来年と、あと2年しか残っていないと考えると、やはり来年度が本格的な調査の最終年度になるのだという考え方に立ってやってもらうといいのではないかと思います。

(酒井課長) あと一つ、井戸がしっかり残っておりますので、井戸の位置、それからもう一つ確実な遺構を見つければ、ある程度正確なものができるのではないかと思います。ちなみに、毎年花巻小学校の5年生を相手にここで御殿の縄張りをやっております。およそで示しているのですが、やってみるといい具合に張れていますので、それをもっと正確なものにしたいと思います。

(熊谷副委員長) 逆に言えば、例えば花巻小学校の授業と併せて、実際の発掘成果に基づいて子供たちに縄張りをしてもらうというな、そういったものとドッキングさせたことをや

るのも。

(佐藤教育長) 調査時期が問題ですね。見られるような時期で。

(中村委員) いつも10月の半ばくらいにやっているんで、もう少し早くやらないと。やはり霜が張ってくるとなかなか厳しくなってくるので、少し暖かいうちに。

(佐藤教育長) 160㎡というのは予算的なものですか。

(酒井課長) そうですね。

(熊谷副委員長) 平成2年の最初の北側の調査時には、結構薄い段階で遺構検出面が確認できたとなると、南御蔵の所でもそんなに深くはないから、検出自体はすぐ出てくると思う。そうすると、今年で約600㎡掘っていて、果たして160㎡はどうか。

(中村委員) ただ、建て替えしている前の御殿との切り合いとか、例えば先ほど瑞興寺の話がありましたけれども、かなり複雑になっている可能性はありますので、逆に言えば沢山出てきた時に收拾がつかなくなる可能性は大なのです。

(熊谷副委員長) 逆にいっぱい出てくるからこそ、面的な広がりをもっとやらないと、かえって分からなくなるということはないか？

(中村委員) ある程度予備で広げる部分とかを頭に入れながら、あまり出てきたら完全に掘れないかもしれないから、その辺も含めて考えていかないと複雑になる可能性がある。

(高橋委員長) 広げた後も時期が分からなくなるのです。それほど密集していないのですが、ないにも関わらず、整地の後のものと前のものがごちゃごちゃになってしまう、部分的に掘ると。そこは注意してやってもらえないけれども、熊谷さんが先程からおっしゃっているように、市民の期待に応えるためにも本丸御殿を少しでも明らかにしたい。どの程度掘るかは別として、一応目的としては本丸御殿を掘るということ。

(佐藤教育長) 連続して掘る必要はない訳ですね。

(中村委員) 飛んだっていい訳です。要するに、図面さえはっきりしていれば、東側に飛ぶということは十分に考えられる。

(酒井課長) ですから、最初からこのL字をすっかり掘りあげるのではなくて、状況を見ながら壺掘りのようにして、最後に繋げる。あるいは違うところに飛ぶというようなことも考えていきたいです。

(熊谷副委員長) もしかすると、結構重複している可能性が出てきて、遺構の長幼関係の理解は難しいとなると、来年度掘った部分を31年度に再調査する可能性も出てくる。そんな

ってきた時に、最終的な保存計画をまとめる際、ある程度本丸部分と二之丸の南御蔵の部分と調査した所については概要を理解できるくらいの情報を持たないと、保存管理計画が策定できないと思うのですよね。だから、そういうことを考えていくと、実質的に来年度が最終調査だというような意識で掘っていかないとならないのかなと思う。この図面通りに出てくれば、この図面上で本丸の整地の在り方というのは把握できるのですが、もし違う場合は、東側で壺掘りとかトレンチ掘りをして東側の範囲を特定する必要が出てくるというようなことで。来年度の調査計画もさることながら、再来年度も意識して来年度は調査を組んでいかなければならない。

(関委員) 来年は非常に重要だと。

(室野委員) トイレの便槽は見つけやすいと思いますけれども、建物の周囲の雨落ちの溝。そういったものは礎石がとんでも残っていますので。そういったもので輪郭は押さえられます。調査の開始時はこのL字のトレンチでもいいと思うのですが、そういうものが出てきた時には、その延長なり効果的な所にトレンチを入れ、できるだけ規模の把握に努めるのがよいと思います。また委員長がおっしゃったような整地層の問題は、確認できるものであればどこかで確認したい訳ですので、深掘りして差支えない場所があれば、そういう所で確認をするのがよろしいのではないのでしょうか。

(高橋委員長) いま室野さんから出ましたように、基本的にはこういうことで。臨機応変に対応するということを前提にしてやっていただく。間違いなく、私はこの図面の前の段階のものがあるような気がしているので、是非その辺りも注意していただければと思います。あと、何かございませんか。無ければ、来年度この実施計画案でやってもらうということによろしいでしょうか。では、協議(2)実施計画案についてはこれで終了します。

#### 4 その他

(佐藤係長) 長い時間ありがとうございました。次の〔4 その他〕になりますけれども、事務局から2点ほど報告とお願いということでご連絡したいと思います。文化財課長の酒井より申し上げます。

※新興製作所跡地の現状について報告。

※委員の任期が平成30年3月31日までのため、平成30年4月以降の継続をお願い。

## 5 閉 会

(佐藤係長) 事務局からは以上となりますが、その他何かございますか。よろしいでしょうか。特に無ければ、以上もちまして平成 29 年度第 1 回花巻城跡調査保存検討委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。